



糖尿病通信

— 27 —

糖尿病と上手にお付き合いするために

糖尿病の内服薬—その2

残り3種類の内服薬をご紹介します。

1. 食物の吸収を遅らせるαグルコシダーゼ阻害薬

ベイスン、グルコバイ、セイブルがあります。糖尿病の方の多くはインスリンの分泌が出遅れる傾向にあり、食後の血糖上昇に対応できません。そこで、この薬は、食事の際、小腸での糖の吸収を遅らせ、急激な血糖の上昇を抑えます。必ず食直前に服用しましょう。αグルコシダーゼというのは小腸で炭水化物を分解し、吸収させる酵素です。この酵素の働きを押さえることで吸収される場所が下部小腸へ移り、また炭水化物の一部は大腸で発酵、分解されるため、腹部膨満、放屁の増加、下痢などの副作用があります。



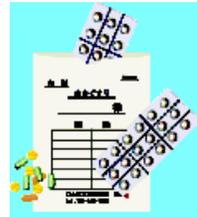
2. 敗者復活、ビグアナイド薬！

ビグアナイド薬は1950年代から使われており、当院では**メルビン**というお薬を使用しています。以前、この薬の仲間で、乳酸アシドーシスという副作用が多発したため、一時はあまり使われなくなりました。しかし、メルビ

ンの場合、注意して使用すればほとんど問題ないということがわかり、また、他の薬にない優れた点が見直され、最近また良く使われるようになりました。この薬は膵臓に負担をかけず、肝臓に働きかけ、糖の新生を抑えたり、筋肉への糖の取り込みを助けたりして血糖を改善します。体重増加を起こしにくいのも利点です。腎障害、高度の肝障害、呼吸不全や心不全のある方には使用できません。時に下痢や食欲不振が見られます。

3. 内臓脂肪と戦う、インスリン抵抗性改善薬

日本では**アクトス**のみ使用されています。インスリンの効果を高めることで血糖を改善します。肥満している方やインスリン抵抗性の高い方でよく効果を発揮します。内臓脂肪を減らして、皮下脂肪を増やすといわれています。副作用として、むくみ、体重増加などの問題があります。もともと肥満のある方に使用することが多いため、食事療法、運動療法をしっかりと行う必要があります。また、心不全のある方は悪化させる可能性があります。



4. これから登場する薬は？

インクレチンは消化管ホルモンで、インスリン分泌を刺激します。すでにアメリカでは注射薬として販売されています。いずれ、内服薬も登場するのではないのでしょうか。低血糖を起こしにくく、食欲も抑えてくれるようです。

これらのお薬が十分効果を発揮するよう、飲み忘れをなくし、飲み方にも気をつけましょう。 内科 柳澤

糖尿病のケア

★体調の悪い日の薬の飲み方

・食事量に応じた服用の仕方

薬名	食事量	1/2未満	1/2以上
ベイスン グルコバイ セイブル		服用中止	全量
アクトス			
メルビン			
ファステック スターシス			

※特に食事量によって細かく服用量が変わるお薬

薬名	食事量	1/3未満	1/3～2/3	2/3以上
ラスチノン ダオニール アマリール		服用中止	半量	全量

☆他の糖尿病薬よりも作用時間が長い薬なので、低血糖により注意が必要です。

気をつけましょう！

普段食前又は食直前に服用している方で、体調が悪く食事がいつも通り摂れない場合には、食事量に合わせて食後に変更して服用しましょう。



薬には割線(錠剤についている割れ目)が入っていますので、スプーンの底などを使うとうまく割る事ができます。

薬剤科 中川